

上島の文芸

双葉吟社【岩城】

はらはらと山道に木の葉しきつめる

児島 泰

音静か軒を濡らして初時雨

伊佐 幹男

裏を見せ表を見せて舞う木の葉

田中 華丘

地に落ちて切絵の如し木の葉かな

山元 征子

天平の秘宝偲ぶや初時雨

美濃部妃苗

冬近し岩に碎ける波しぶき

林 七重

風や再会約し友立てり

森本 伸子

主なき一草庵に石路たわわ

古林 幹枝

船上に紫煙くゆらす初時雨

森本 和佳

小盃酌むや窓辺に木の葉雨

田名後簗雨

初時雨積善山斜に去りゆけり

幸本 孤燈

愛媛県高等学校商業教育実務競技大会

普通科等の部 優勝

11月6日、松山市の聖カタリナ女子高等学校にて行われた平成23年度愛媛県高等学校商業教育実務競技大会のワープロ競技 普通科等の部で、弓削高等学校（佐伯流星さん、古本力さん、脇坂紀之さん）が団体優勝しました。生徒のみなさんの今後益々のご活躍を期待しております。



弓削商船高等専門学校

東日本大震災 ボランティア活動

10月6日、弓削商船高等専門学校の学生、教職員、卒業生の計7名の方が岩手県宮古市でボランティア活動を行いました。主な活動内容は岩手県宮古の浄土ヶ浜観光船クルーズ陸中丸に対する支援活動で、運航支援、船内清掃、観光者の方への接客支援の業務を10月9日まで行いました。



日本学生科学賞愛媛県大会

優秀賞 受賞

放射線等に関する課題研究コンクール

全国大会出場

12月8日、第55回日本学生科学賞愛媛県大会の表彰式が行われ、弓削高等学校2年生の小林佳博さん、藤田悠希さん、宮原啓介さんが「船折瀬戸における潮流の研究」という題目で、小林佳博さんが、「ソレノイド巻数と磁界の関係」という題目で優秀賞に選ばれました。同校1年生の赤瀬友里さんも「泡に潜む火山噴火のメカニズム」という題目で佳作に選ばれました。

また、藤田悠希さん、宮原啓介さん、赤瀬友里さんは、12月26日に東京大学で行われる「放射線等に関する課題研究コンクール」全国大会に出場します。



平成24年

2月1日 (水)

経済センサス活動調査

総務省・経済産業省・都道府県・市区町村 <http://www.stat.go.jp/data/e-census/campaign/index.htm>

「経済の国勢調査」です。全国すべての企業・すべての事業所が対象です。

調査票は平成24年1月末日までにお届けします。2月1日以降に提出をお願いします。

- この調査は、統計法に基づく基幹統計調査で、調査票に記入して提出する義務があります。
- 提出された内容は統計作成の目的以外(税の資料など)には、絶対に使用しません。

経済センサス 検索

問い合わせ先：上島町広報情報課 TEL 77-2500

かみじま歴史探訪

シリーズ：史料が物語る郷土の歴史⑩

第一次大戦と実習生の遭難



「太平洋戦争」で帰らぬ犠牲者となり、各遺族会によって奉祀されている戦没者は次のようです。

弓削 二二二柱
生名 八四柱
岩城 一四七柱
魚島 五一柱
合計 四九四柱

それ以前にも、第一次世界大戦や日清・日露戦争、また西南戦争でも戦死者や負傷兵士が島々からも出ています。

明治三十四年に創立された弓削商船学校の卒業生や実習生からも多くの犠牲者が出ました。そのほとんどは、太平洋戦争中に商船や軍艦と運命を共にされた方たちです。弓削出身の岡綿古船長（航海学科二十二期、大正十四年卒、昭和三年練習科修了）は、魚雷攻撃にさらされながらの航海中に次の句を詠んでいます。

息詰まる 雷跡かわし 涼を入れ
その岡船長も、昭和十九（一九四四）年十一月十四日、フィリピン沖で雷撃により乗組員と運命を共にされました。ご遺族からの拝聴です。



弓削商船の『卒業生死亡者名簿』

戦火によって卒業生や実習生から最初の犠牲者を出したのは、第一次世界大戦でした。辰馬（汽船）商会の千寿丸に実習生として地中海を航海中に中崎芝蔵・笹田義一の両学生が、大正四年十一月にドイツ潜水艦の水雷攻

撃を受けて行方不明となっています。中崎芝蔵（旧温泉郡神和村上怒和出身）学生の姪にあたる石橋常子さんから事件の詳細をまとめた『ああ千寿丸』（合資会社辰馬商会発行）が寄贈され、弓削商船高専学芸部の『海事史研究』第4号（昭和五十四年刊）にその全文が転載されています。その最初に中崎実習生が遭難する以前に投函した、筆書きの両親宛ての手紙の写真も掲載されています。

拝啓、未だ余寒去り難く御座候処、皆々様にはお障りはこれ無く候哉（や）御伺い申し上げ候。降つて迂生（うせい、私）儀無事勉学まかり在り候間、御休心下されたく候。

却説（さて）、最早（もはや）休暇も近寄り候処、本休暇は十日間位に候へば……

『ああ千寿丸』には、「大正四年五月神戸出航、七月、パナマ運河通過、同年十月アルゼリアのアオラン入港、同月十四日、同港出帆後何らの消息なし……」と記されています。船長以下四十七名、実習生は弓削商船のほかに鳥羽・佐賀商船学校各一名、あわせて四名でした。

第一次世界大戦中に地中海で遭難したのは、先の両学生だけではなくありませんでした。弓削商船学校の航海学科第十三期生（大正三年入学、同八年卒）の小山亮学生もその一人でした。大正六年に、山下汽船株式会社の武州丸の実習生として地中海を航海中の体験を、翌年に発行された弓削商船学校の『学友会誌』に「伊太利オネリヤ港より」と題して次のように寄稿しています。

二ヶ年有余の海上生活……憎い敵（潜水艦）の姿を見たときに、親愛せる学友中崎・笹田の両君や愉快なりし友清水君もこの凶手によって……と思うと、全身の血は逆流……（弓削商船学校『六十年史』より）

この小山実習生自身も、この原稿を投函してから間もなく雷撃に直面します。『反骨一代……回想の小山亮』（全日本船舶職員協会刊）で次のように語っています。「……シリリー島を左手に……エンジンの鼓

動だけが聞こえていた。……昼飯どき……ガンと椅子が床ごとにはね上げられ……ボートデッキにかけ上がったが船は大きく傾いていた……」

危うく脱出できた小山実習生は卒業後、山下汽船や国際汽船に乗務しましたが間もなく退職して郷里の長野県小諸町の町会議員から政界に身を投じました。もともと小山亮の実父、久之助は、自由民権運動で著名な中江兆民の仏学塾で学んだ人物で、第六回総選挙で衆議院議員に当選した人物でした。

その子息の亮少年は、郷里の長野県の小諸で成長、三重県の鳥羽商船学校に入学しましたが、中途退学、その後、父の友人であった大隈重信の勧めで弓削商船学校に入学したように『反骨一代』には記されています。

小山亮は政界に身を投じたのち、数度衆議院議員に立候補、昭和十一年には第十九回総選挙で衆議院議員に初当選しています。その後は、日本全国の商船学校卒業生の組織、全日本船舶職員協会の会長等として活躍されました。

弓削商船学校（現高専）の教務課の金庫には、『卒業生死亡者名簿』が秘蔵されていました。太平洋戦争中の戦死者についての記録です。近島の出身者は次のようですが、記載漏れも多い模様です。

弓削二十三名、岩城一名、生名一名、因島五名

弓削商船高専の校庭の一角には、大正七年建造の巨大な「招魂碑」が立っています。碑文（原漢文）は次のようです。「本校……在学之徒、不幸、中道にして斃（たおれ）し者、其の志、洵（まこと）に哀れむべきなり……」



校庭にある招魂碑

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授
上島町文化財保護審議会顧問 村上 貢 稿